

令和7年度 全国高等学校長協会家庭部会事業報告（中間）

1 常務理事会、全国理事会・研究協議会、総会・研究協議会

(1) 常務理事会、全国理事会並びに研究協議会

5月26日（月）、ホテルメトロポリタンエドモントを会場に、第1回常務理事会、続いて第182回全国理事会・研究協議会を開催した。常務理事会では、全国理事会や総会の運営等についての協議。全国理事会では、家庭部会常務理事会並びに振興会評議員会・理事会の報告、役員の任期満了に伴う改選を行い、次のとおり選出された。理事長に栃木県立宇都宮中央高等学校 高木 伸一校長、副理事長には埼玉県立鴻巣女子高等学校 秋元 俊一校長、千葉県立佐倉東高等学校 相澤 直幹校長（再任）、東京都立南多摩中等教育学校 富川 麗子校長（再任）が選出された。

(2) 総会・研究協議会

第112回総会・第133回研究協議会（春季）は、5月27日（火）、ホテルメトロポリタンエドモントを会場に93名の参加の下で開催した。開会式では、理事長、来賓挨拶に続き、63名の校長を対象に功労者表彰を行った。表彰者を代表し、茨城県立伊奈高等学校前校長 斉藤 辰彦氏から挨拶をいただいた。その後、振興会関係の令和7年度役員並びに6年度事業報告等があり、協議では、令和6年度家庭部会の事業報告・会計決算報告、監事選出、令和7年度家庭部会の事業計画・予算書案、家庭に関する研究大会等の開催予定案の審議が進められ、案はすべて承認された。なお、監事には、茨城県立水海道第二高等学校 幸田 和洋校長、埼玉県立新座総合技術高等学校 佐久間 博正校長、千葉県立館山総合高等学校 吉川 昌彦校長が選出され、前日に選出された本部役員と共に新体制が整った。

総会後には、「AI時代におけることばの力、伝える力」と題して、NHK財団ことばコミュニケーションセンター エグゼクティブ・アナウンサー 松尾 剛氏から講演をいただいた。その後、家庭科調査研究委員会からの中間報告、そして文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 田邊 暁子氏から「学習指導要領のさらなる充実に向けて」と題して講話をいただいた。

(3) 研究協議会（秋季）＜岩手大会＞

第134回研究協議会は、10月9日（木）・10日（金）の2日間、岩手県立花北青雲高等学校（高橋 幸美校長）を主管校として、ホテルメトロポリタン盛岡（盛岡市）を会場に約130名が参加して開催された。

開会式に続いて、株式会社上町家守舎代表取締役 小友 康広氏による「10万人未満の地方都市で20代を惹きつける地域と会社のつくりかた」と題した講演が行われた。研究協議では、1日目に家庭学科設置校又は家庭系列のある総合学科の学校AとAを除く学校、各3校からの提案があり、2日目には、前日の発表を基に「家庭科教育に期待できる変化を起こす力とそれを支える学校経営」をテーマにグループ協議を実施。その後、専門教育・普通教育・技術検定の各調査研究委員会から中間報告。続いて進路調査研究委員会から進路調査結果と関係団体への要請活動について報告があった。さらに、文部科学省初等中等教育局教科調査官 田邊 暁子氏より前日の提案に対する講評と「学習指導要領のよりよい実施にむけて ～主体的・対話的で深い学びの実現のために ～学習指導要領の着実な実施に向けて～」と題した講話をいただいた。

2 家庭科実践研究会、小学科校長会、家庭科調査研究委員会活動等

(1) 第69回全国高等学校家庭科実践研究会＜愛知大会＞

愛知県立大府高等学校（彦坂 永利子校長）を主管校として、8月6日（水）・7日（木）の2日間、「家庭科におけるウェルビーイングの躍進に向けて～愛・知ルおもてなし文化の継承～」をテーマに、約230名が参加して開催された。1日目はウインクあいちを会場に、「学習指導要領のよりよい実施に向けて」と題した文部科学省初等中等教育局教科調査官 田邊 暁子氏の基調講演、「穂の国 とよはしからエール ～美味しい幸せを追求する老舗カンパニー～」と題したヤマサちくわ株式会社 代表取締役社長 佐藤 元英氏の講演、続いて「愛知県家庭科研究会の実践発表」と題した愛知県立春日井泉高等学校 三田 千英子教頭からの実践報告があった。2日目は県内各地で、愛知県の歴史・産業・文化などの特色を生かした見学・講話・体験を取り入れた5コースのアラカルト研修が実施された。

(2) 被服・服飾デザイン系高等学校長会 第18回総会・研究協議会並びに学科主任研究協議会＜岐阜大会＞

岐阜県立大垣桜高等学校（宮田 慶美校長）を主管校として、11月6日（木）・7日（金）の2日間、「ファッション産業における将来のスペシャリストの育成 ～ウェルビーイングの向上を目指して～」をテーマに、約80名が参加して開催された。第1日目はホテルグランヴェール岐山を会場に、「個性と思いが変える 令和の地方部ファッション産業最前線」と題した株式会社阜月屋 代表取締役 水野 琢朗氏の講演、続いて、

「卒業研究作品紹介 ～テキスタイル研究作品～」をテーマにした岐阜県立大垣桜高等学校 服飾デザイン科 2・3年生によるファッションショーがあった。その後、校長分科会と学科主任・家庭科教員分科会に分かれての研究協議が行われ、続いて、文部科学省初等中等教育局教科調査官 田邊 暁子氏の「学習指導要領のよりよい実施に向けて～Well-Being の向上を目指してできること～」と題した講話があった。第2日目は、テキスタイルマテリアルセンター及び葛利毛織物工業株式会社の見学が行われた。

(3) 家庭科調査研究委員会

家庭科における教育課題の改善、家庭科教育振興等の観点から、専門教育・普通教育・技術検定・進路の各調査研究委員会において調査及び研究を行っている。

専門教育・普通教育・技術検定の3つの委員会は令和6・7年度の2年間継続して、進路調査研究委員会は単年度で実施。継続研究の3委員会は、年各4回の委員会を開催し、6年度に実施したアンケート調査結果の分析・考察並びに実践事例や授業研究等の紹介を年度末までに報告書としてまとめる。

各委員会の研究テーマは次のとおり。

○専門教育「持続可能な社会の創り手の育成 ～不易と流行～」

○普通教育「家庭科教育とウェルビーイング」

○技術検定「学習指導要領を踏まえた保育技術検定の在り方 ～共通教科「家庭」の指導の充実に向けて～」

進路調査研究委員会は、年2回の委員会を開催し、「令和6年度家庭学科卒業者の進路状況調査」を実施してその結果を秋季研究協議会で報告した。また、大学等への要望書を作成し、併せて、都道府県代表理事に大学、短期大学、専門学校の入学者選抜等に関する要請訪問やアンケート調査を依頼した。

3 その他の事業

(1) 第73回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会<三重大会>

三重県立四日市農芸高等学校（中田 直人校長）を事務局に、「人々をつなぐ夫婦岩 未来の真珠輝いて希望と笑顔で全国結ぼう」を大会スローガンに、7月31日（木）・8月1日（金）の2日間、四日市市文化会館を会場に開催された。

「ホームプロジェクトの部」及び「学校家庭クラブ活動の部」において各7校が発表し、すべての発表者に「全国高等学校長協会家庭部会賞」として、表彰状及びトロフィーを贈呈した。

(2) 第35回全国産業教育フェア<福島大会>について

「産業から変わる福島の未来 ～エールで咲かそう福の華～」を大会テーマに、10月25日（土）・26日（日）の2日間、「ビッグパレットふくしま」をメイン会場に開催された。家庭部会では、「作品展示」「意見・体験発表」「作品・研究発表」に参加した。作品展示部門には、ブロック代表理事を通して15校を目途に参加校の推薦を依頼したところ、合同展示も含めて21校が出品し、日頃の学習の成果を展示発表した。「作品・研究発表」は岩手県立大船渡東高等学校、「意見・体験発表」は愛知県立成章高等学校の2校が出場した。従前どおり、全国高等学校家庭クラブ研究発表大会で発表した家庭学科の高校の中から推薦した。

2日目には「全国高校生クッキングコンテスト」が開催され、当部会から青森県立百石高等学校チームに「全国高等学校長協会家庭部会理事長賞」を授与した。

(3) 刊行物等

「家庭部会報」を7月に「第145号」、令和8年1月に「第146号」を発行した。

(4) 独立行政法人教職員支援機構からの委託事業

独立行政法人教職員支援機構から委託を受け、産業・情報技術等指導者養成を目的とする研修を実施している。8月18日（月）～20日（水）の3日間の日程で、都道府県教育委員会から推薦を受けた22名の家庭科教員等が参加した。文部科学省初等中等教育局教科調査官や元校長による講義、高校教諭や大学教授等による講義や実習など多岐にわたるプログラムで、受講者は熱心に研修に取り組んだ。研修の成果は、各都道府県で開催される研修会等で報告され、広く還元される。